



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小合信也
東京都文京区後楽1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

「平成27年木材需給表」公表

木材自給率は5年連続で上昇し、33.3%に

林野庁は、平成27年の木材需給に関するデータを集約・整理した「木材需給表」を取りまとめ、公表した。

総需要量は7,530万m(丸太換算以下同)で前年比0.7%減少した。国内生産量は2,505万8千mで前年比6.0%増加、輸入量は5,024万2千mで前年比3.7%減少した。

木材自給率は前年から2.1ポイント上昇し33.3%となり、平成23年から5年連続で上昇している。

1. 木材の需要

平成27年の木材総需要量は7,530万m。前年比49万9千m(対前年増減率(以下同じ)△0.7%)減少した。

前年に比べ、燃料材が116万2千m(39.5%)、しいたけ原木が2千m(0.6%)、それぞれ増加したものの、用材が166万4千m(△2.3%)減少したことによる。

なお、用材の内訳は前年比、製材用材が78万1千m(△3.0%)、合板用材が123万m(△11.0%)、それぞれ

減少し、パルプ・チップ用材が35万m(1.1%)増加している。

2. 木材の供給

(1) 国内生産
平成27年の国内生産量は2,505万8千m。前年比141万1千m(6.0%)増加した。

前年に比べ、用材が30万5千m(1.4%)、しいたけ原木が2千m(0.6%)、燃料材が110万3千m(59.8%)、それぞれ増加したことによる。

なお、用材の内訳は前年比、製材用材が20万7千m(△1.7%)減少、パルプ・チップ用材が15万5千m(3.1%)、合板用材が18万4千m(5.5%)、それぞれ増加している。

(2) 輸入

平成27年の輸入量は5,024万2千m。前年比191万m(△3.7%)減少した。

前年に比べ、燃料材が5万8千m(5.3%)増加したものの、用材が196万8千m(△3.9%)減少した。

なお、用材の内訳は前年比、製材用材が57万4千m(△4.1%)、合板用材が141万4千m(△18.1%)、それぞれ減少し、パルプ・チップ用材が19万5千m(0.7%)増加している。

3. 木材自給率の動向
木材の国内生産量が増加し、輸入量が減少した。木材自給率は、平成23年から5年連続で上昇。

「主要木材の需給見通し(28年第4四半期及び29年第1四半期)」

I 見通しの要点

1. 平成28年第4四半期(10~12月)の需要は輸入製材品、構造用集成材は前年同期に比べ増加、国産材製材用丸太、輸入丸太、合板は前年同期と同程度、国産材合板用丸太は前年同期比減の見通し。
2. 平成29年第1四半期(1~3月)の需要は、構造用集成材は前年同期増加、国産材製材用丸太、国産材合板用丸太は前年同期同程度、輸入丸太、輸入製材品、合板は前年同期比減少の見通し。

3. 平成28年度の新設住宅着工戸数は、景気の緩やかな持ち直しを反映して前年度比増加すると見込まれる。
II 平成28年度第2回木材需給会議の意見等の概要(抄)

1. 経済情勢

・実質GDP成長率は、平成28年度は前年比+0.9%、平成29年度は前年比+1.0%となる見通し。
・平成28年度は個人消費が堅実さを取り戻すことに加え、海外経済の回復により輸出が緩やかに持ち直すと見込まれる。
・平成29年度は個人消費が緩やかに持ち直す上、企業業績の改善から設備投資の増加基調が維持され景気を下支え。平成28年度第2次補正予算の効果が本格化し、景気を押し上げ、海外景気の回復が続き、

主要木材の入荷量等の概要

単位：千m、% (括弧内は前年比又は前年同期比)

Table with columns for Domestic Roundwood (Manufacturing/Composite), Imports (Roundwood/Manufacturing), Composite, and Structural Laminated Wood. Rows include 26th year actuals, 27th year quarterly actuals, 28th year quarterly actuals/forecasts, and 29th year quarterly forecasts.

輸出も増加基調が続くと見込まれる。

2. 住宅着工

・平成28年5～7月季節調整済年率換算値100万戸台で推移、非常に高い水準続く。貸家が40万戸台で推移し増加に寄与。地方中核都市の活性化を反映した貸家業への投資によると考えられるが、空き家率は上昇傾向、需給悪化懸念され先行き緩やかな低下予想。平成28年度新設住宅着工戸数は、対前年比104.2%の959千戸、平成29年度は対前年比97.8%の938千戸と想定。

3. 木質バイオマスの動向

・木質バイオマスエネルギーとして利用された木材チップ量のうち間伐材、林地残材等は平成27年271万m³と前年比1.7倍。

・平成28年度の稼働木質バイオマス発電所の燃料使用量は27年度に対し1.3倍と見込まれる。

4. 木材輸出動向

・平成28年の1月～7月の輸出量は丸太で前年比マイナス4.6%、製材+24.2%、合板+81.3%、輸出額は約133億円余前年比+4.8%。円高傾向の影響が出ている模様。

・国別は中国約50億円余+6.9%、韓国マイナス22.6%、台湾マイナス26.2%フィリピン+72.7%等。

5. 主要木材需給動向

(1) 国産材(需要(工場入荷))

①製材用丸太・平成28年第4四半期は前年同期比減少、平成29年第1四半期は昨年並み見通し。住宅は堅調に推移も、事業者の受け止め方に差、台風、長雨等の今後の出材への影響見込まれる。

②合板用丸太・第4四半期は前年比減少、平成29年第1四半期は昨年並み見通し。平成28年全体で前年比増大見通し。住宅着工の回復、国産材合板へのシフト、輸入合板の減少、フロア台板、型枠用国産合板需要拡大の影響が見られる。

(2) 米材

①丸太

・需要は年内比較的好調持続、平成28年第4四半期は前年並み推移、平成29年第1四半期は急激な増減なく、来年以降も今年水準の需要量必要の見通し。今後為替推移、大型補正予算、大規模災害復興需要、東京五輪までの住宅着工見通しなど注視。

・供給は第4四半期は堅調に推移し、前年並み、平成29年第1四半期は前年同期比で若干減少の見通し。

②製材品

・需要は第4四半期プレカット工場の稼働率良いとみられるが、昨年末比では元気なく前年同期比減、平成29年第1四半期は消費増税延期の悪影響見られず前年並みの見通し。

・供給は第4四半期は各社買付に消極的で前年比減少、平成29年第1四半期はカナダ産SPFのアメリカ向け数量予測難しいが前年同期比で増加の見通し。

(3) 欧州材(製材品供給)

・第4四半期は、端柄材通常通り、ラミナ堅調な入荷で前年比増加、国内需要動向や為替動向を反映して低調な水準で推移するも、平成29年第1四半期の構造材は底堅いが、端柄材は下り坂で現地大手製材が減産し前年同期比減少の見通し。

(4) 南洋材

①丸太
・製材向け需要は現地出材状況の影響で第4四半期及び平成29年第1四半期とも前年同期比減少見通し。

・合板向け需要は新潟港40日の開門閉鎖で、減少分を第4四半期及及び平成29年第1四半期とも前年比減少する見通し。

②製材品
・需要は第4四半期前年並み、平成29年第1四半期は平成28年の平均並みの需要見通し。

③供給は、第4四半期入荷安定も前年同期比減少、平成29年第1四半期は通常レベルの入荷水準で前年並みの見通し。

(5) 北洋材
①丸太
・需要は製材用需要は同程度で推移、合板用需要は供給サイドに大幅な期待できず、第4四半期前年比減少、平成29年第1四半期は前年比増加の見通し。

・供給は第4四半期は端柄期で入荷限定的で昨年並み、平成29年第1四半期はこの時期カラマツを手当てするメーカーい少なくなり前年比減少の見通し。

②製材品(供給)
・第4四半期、平成29年第1四半期とも例年通りの入荷が予想され、前年同期並みの見通し。

(6) ニュージーランド・チリ材
①丸太
・需要は、第4四半期はバレット、梱包需要が期待でき前年同期度、平成29年第

1四半期は需要期であるが輸出需要平準化傾向で前年同期比減少の見通し。

②製材品
・需要は第4四半期は遅れていたチリ材が入荷し前年比増加、平成29年第1四半期は以前ほど決算前の動きのないものと見越し前年比減少の見通し。

(7) 合板

①国内製造
・需要は第4四半期は住宅着工好調でハウスメーカー、プレカット工場とも針葉樹構造用合板手当進めルート関係販売店も針葉樹合板の先行発注行くとみられ、前年同期比増加の見通し、平成29年第1四半期は比較的順調に推移と思われる前年並みの見通し。

・供給は第4四半期は住宅着工回復、フロア台板合板需要拡大を期待し、前年同期比増加、平成29年第1四半期は前年並みの見通し。

②輸入

・需要は、型枠合板、構造用合板の落ち込み続くがフロア台板比較的受注好調で第4四半期、平成29年第1四半期とも前年並みの見通し。

・供給は第4四半期はフロア台板中心にインドネシア産合板増加傾向も、型枠合板中心のマレーシア産合板の供給減少大きく、全体では前年比減少の見通し。平

成29年第1四半期は、インドネシア産微減、マレーシア産減少傾向続き前年同期比で減少する見通し。

⑧ 構造用集成材(供給)

①国内製造・第4四半期は需要が当面堅調に推移と想定し、前年同期比増加、平成29年第1四半期は大型補正等の効果も見込み、前年同期比で増加の見通し。

②輸入・第4四半期は現地RW梁工場新設による新規成約分入荷予定で前年比増加、平成29年第4四半期は、平成29年は需要落ち込み予測も、本年第4四半期の契約好調で前年と同程度と見通し。

■第61回全国優良木材展示会(東京木材市場(株))

厚沢部林産工業(株)に都知事賞

東京都木材団体連合会(吉条良明会長)と東京木材市場協会(市川英治会長)は10月6日(木)に、東京木材市場株式会社(市川英治社長)において全国優良木材展示会を開催した。

開会に当たり、吉条都木連会長は、関係者への謝辞を述べたうえで、かつては、都主催で開催されていた全優展の歴史、開催の趣旨、木材自給率が30%を突破し国産材利用が拡大していること、ふれあ展の開催等についても触れ、本展示会に集まった素晴らしい材を、盛大にお買上げ願いたいと挨拶した。

前日10月5日(水)に行われた審査会においては12社205㎡の製材品について、「寸法、技術、表示・結束、乾燥、出荷実績」等の項目毎に減点方式で審査した。審査結果は以下のとおり。
①都知事賞・厚沢部林産工業(株)

②産業労働局長賞・久万広域森林組合、協和木材(株)、東北木材(株)、沼崎製材所、(株)杏澤製材所

③都木連会長賞・本宮木材(株)、(株)松栄商事、(有)菊地製材所、(有)日野製材所、(株)佐川林業。

東京都知事賞などの各賞を受賞者に贈呈し、来賓の東京都労働産業局森林課石城課長、島田全木連副会長、早川都買連理事長の挨拶を頂いた。市川東京木材市場(株)社長から「展示会開催にご尽力いただいた関係者への感謝、展示会の趣旨、公共建築物の木造・木質化の進展、新設住宅着工が95万戸ペースで進んでいること、今こそ国産材需要拡大の好機であること、品質・規格の担保された優良国産材のお買い上を」等の挨拶後、活発なセリが行われた。

■第44回JAS製材品展示会(丸宇木材市売(株)北浜市場及びウッドピア市売(協))



(式典の様子)

第44回JAS展は10月には、12日(水)〜13日(木)丸宇木材市売(株)北浜市場(押本雅壽社長、埼玉県)、同18日(火)〜19日(水)ウッドピア市売(協)(村林稔理事長、三重県)で開催された。

【丸宇木材市売 北浜市場】

12日の審査会には、8社から46㎡の製品が出品され、細貝審査委員長代理(全木連)及び坂東埼玉県木連会長ほか審査員が厳正に審査した結果、100点が半数の4社と極めて優秀な成績であった。

翌13日の展示即売会には、主催者を代表して、全木連の島田副会長が出席し、JAS制度の意義や普及への協力要請を行った。また、開催市場の押本社長が挨拶し、JAS製品の普及とお買い上げを要請し、その後活発なセリが行われた。

【ウッドピア市売(協)】

18日の審査会には、4社(当初6社の予定が、直前に2社が出展に間に合わず)から22㎡が出品され、服部順昭委員長(日本木材加工技術協会会長)ほか審査員が厳正に審査した結果、100点が1社という成績となった。翌19日の展示即売会では、近畿中国森林管理局清水企画官及び三重県木連深田専務出席のもと、安藤良一全買連監事(愛知県木材買方(協)副理事長)が主催者代表の挨拶を行い、その後活発なセリが行われた。

■第36回木と暮らしのふれあい展 — 小泉進次郎農林部会長も視察 —

長も視察

東京都と東京都木材団体連合会(吉条良明会長)は10月22日(土)〜23日(日)、都内江東区の木場公園イベント広場で「木と暮らしのふれあい展」を開催した。両日とも好天の中、会場には2日間で6・5万人(主催者発表)が訪れ、出店団体による展示即売や木工教室を楽しむ参加者でおおいにぎわった。

22日の式典は、天野洋一実行委員長(東京材木商協同組合代表理事)による開会宣言のあと、主催者の東京都産業労働局の藤田裕司局長が挨拶し、続いて挨拶に立った吉条都木連会長は、「暑い日・激しい雨等、異常気象が常態化、地球温暖化が強く懸念、その一因の二酸化炭素を吸収・固定する森林及び木材の役割は高まっている。木と暮らしのふれあい展で木と触れ合い親しんでいただきたい」旨を語った。

【イベント会場】

イベント会場では参加団体によるテントが張られ、森林の役割や木材利用の大切さを理解していただくためのクイズや寸劇、木工品の即売などが行われたほか、マイ箸づくりや縁台づくりを体験する木工教室及びブルーベリー、オリーブの苗木配布などが行われ、順番待ちする親子連れでにぎわった。また木製花器、木の椅子、スノコ、杉盆などのチャリティオークション、組み木ペンスタンドラリー、木製コースターのプレゼント及び住まいに関するアンケートなども行われた。ステージでは木場の木遣りや詩吟が披露され、多くの人でにぎわった。

また、今回の「ふれあい展」には、小泉進次郎自民党農林部会長も視察に訪れ、多くの方々と歓談した。

【林業機械展示】 今回のふれあい展では小泉農林部会長の肝いりで、都会のご真ん中で最新の林業機械を見てもらうイベント「最新の林業機械を見よう」木場公園も併せて開催された。プロセッサ一等高性能林業機械が展示実演され、多くの親子連れでにぎわった。



(都買連展示ブース)



(マイ箸づくり)



(小泉農林部会長視察の様子)



(開会式の様子)

「平成27年木質バイオマスエネルギー利用動向調査」の結果(速報)

林野庁は、「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」のうち、平成27年にエネルギーとして利用された木材チップの量(速報)を取りまとめ公表した。

1. 調査の概要

当調査は、木質バイオマスを利用している発電機及びボイラーを有する事業所を対象として、事業所の概要、設備の利用動向、公的補助の活用状況、木質バイオマスの利用量を調査するもので、今年から実施した。調査対象1,362事業所のうち、1,294事業所から回答があった。

2. エネルギーとして利用された木材チップの量(速報)

平成27年にエネルギーとして利用された木材チップ量は全体で719万トン、「間伐材・林地残材等」(国産の間伐材、主伐材、除伐材及び林地残材(末木、枝条、被害木等))由来の木材チップは123万トン、「製材等残材」由来の木材チップは152万トン、「建設資材廃棄物」由来の木材チップは431万トン。



(林業機械展の様子)

3. その他

木質バイオマス利用量の確定値と事業所概要、設備利用動向、公的補助の活用状況は、平成28年12月に公表予定。

平成28年度木材アドバイザー養成講習会開催のご案内

木材を取り扱う方々を対象に環境問題や木材需給、日本の林業のほか、木の見分け方や基本的性質、木造建築に関する実践的な知識を学んで頂くため、下記により木材アドバイザー養成講習会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。(東京会場定員40名程度、福岡会場定員30名程度を予定。)

- ①(東京会場)平成29年2月17日(金) 9:30~17:20、2月18日(土) 9:00~15:40 (於) 木材・合板博物館 (〒136-8405 東京都江東区新木場1丁目7番22号新木場タワー)
 - ②(福岡会場)平成29年2月24日(金) 9:30~15:40、2月25日(土) 8:30~16:40 (於) 福岡パーキングビルのコミュニティルーム風の森 (〒812-0024 福岡市博多区綱場町1-17)
- 受講料は、22,000円(ただし、受講料、テキスト代、受験料等を含みます)
 (申し込み・問合先)(一社)全日本木材市場連盟 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階 TEL03-3818-1812 906 FAX03-3818-2907

雑記帳

市場関係者のAさんに「どんぐり」を見せて頂いた。見なれたミズナラのどんぐりの角を削り取ってスマートにした形。トルクメニスタンなどに旅をした際、現地ではオークが生育し、トポプラやタマリスクもあったという。トルクメニスタン等西トルキスタン諸国は、シルクロード上の中央アジアの砂漠地帯というイメージで、どんぐりの存在は不思議な気がする。資料によれば、オークの属するコナラ属(Quercus)は日本に16種、世界では、約6百種と言われている。西トルキスタンを含む西アジア、近隣のイラン等にQ. castaneifoliaなど10種類程度をリストアップできる。日本でも海岸の砂地にコナラ属のカシワが生育するし、降水量の少ない中国の長城外の村で緑化事業に携わった際の郷土樹種はモンゴリナラだった。植物は、地域の降水量、気温などの自然条件に適応し、たくましく生育している。ヒトは、その地域で利用できる樹木・木材を家屋や生活用具等に適材適所で活用してきたが、コナラ類は、古くから船材、家具、樽材等として利用されてきた。日本でも古墳時代から杭、板、割材などにコナラ属が利用されているし、三内丸山遺跡等縄文の建築物等もコナラ属と近縁のクリ材(Castanoceras krui)が盛んに利用されている。一つのどんぐりからではあるが、植物のたくましい適応力とそれを上手に利用する先人の適材適所の知恵に敬意を表す次第である。